



秋のサイン 感じる心とゆとり



11月中旬のことです。4年生が理科の時間に、秋になってからの季節の変化を校地内で観察しました。学校にいらっしゃるみなさんは、「急に寒くなったね」「秋が短いねえ」「秋がなくなりよる」と口々におっしゃられます。理科の学習も進度調整が難しくなっています。



ふと花壇に目をやると、各学年が植えた花が咲いていました……。そういえば、本校のある職員がこんなことを私に話してくれたのを思い出しました。



出しました。

「植物は何もしゃべることができません。でもじっくり見ながらなんとなく顔を思い描いて、その植物が何を言いたいのか思いを馳せていくと、不思議とやさしい心になれるんです…と知り合いが話してくれました。」

私たちは、今、変化の激しい超高速で情報にあふれた時代を生きています。そんな時代に取り残されないよう、私などは時に何かに追われるように必死に対応しながら、そして悩みながら過ごすことがあります。最近、自然にどっぷり浸り、心を落ち着けてゆったりと過ごす、そんな心のゆとりがないのは確かです。保護者の皆様はいかがでしょう。こんなことを考えていて、あらためて植物や自然の変化を感じながら、やさしくできる人になりたい、そう思いました。

最重点取組1 ～ 温かい豊かな人間関係づくりを進める ～

11月13日に亡くなられた谷川俊太郎さん。メディアセンターの前に図書支援の田中先生が右の写真のようなコーナーを作ってくれました。メディア等から届けられる日常にあふれる言葉を耳にしながら、みなさん、あらためて、「日本語」や「言葉」というものを見つめてみる時期にあると思いませんか。



- きづく
- きめる
- かかわる
- やりぬく

これからの国語科教育 ～言葉による見方・考え方を働かせる～

前山口県小学校長会長の磯村先生が寄稿された記事を掲載させていただきます。長くて学校の専門用語があふれる文章ではありますが、ご一読いただけると幸いです。

1 言葉をめぐる状況

「炎上」という言葉はもともと炎が上がって激しく燃える様を表す言葉ですが、最近ではSNS上の記事や意見に対して、大量の反対意見や批判が集中する状態を指す言葉としても使われています。そのことを逆手に取り、注目を浴びたいかために意図的に「炎上」をねらった投稿をする場合もあるようです。こうした話を聞くと、人間の考え方や行動が流行の言葉によって操られているかのような不安を感じます。

一方、「雨降って地固まる」という言葉があります。人間関係がうまくいかず、互いの主義主張が対立し、トラブルになる。けれどもその経験が、お互いを深く知り、自分を振り返る機会となり、以前よりも強い絆に育っていくことを表すことわざです。

ことわざは、人間が長い年月に渡って繰り返してきた体験から発見した知恵や真実を、端的に表現しています。けれども今の時代、「雨降って地固まる」を聞く機会は減ってきているように感じます。私たちの見方・考え方が、「互いの関係の難しさをどう乗り越えるか」から「どっちがより悪いかを決める」ほうに傾いているのでしょうか。対立軸や仮想敵を作っておき、自説の正当性を効果的に主張しようとする言葉が多く聞かれる昨今の状況と、何か関連があるのでしょうか。

2 新学習指導要領に示された新しい視点

さて、新学習指導要領に示された国語科の目標は、小・中学校ともに次のように示されています。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

この中で、これまでの指導要領にはなかったのが、「言葉による見方・考え方を働かせ」の部分です。言葉による見方・考え方を働かせるとはどういうことでしょうか。「小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説」では、「児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる」と説明されています。児童自身が、自ら「捉え直したり問い直したり」することが強調されているわけで、このことは国語科における「主体的、対話的で深い学び」につながるどころです。これからの国語科の授業は、単に読んだり書いたりするだけでなく、そこで使われている言葉が、行動や心情などを、適切に表現できているかを捉え直し問い直すという姿勢が重視されるということです。教室では「なぜ、〇〇と書いたのか（△△と書かないのか）」といった課題が重みをもってくるでしょう。

それでは、なぜ、今回の指導要領改訂に「言葉による見方・考え方を働かせ」が入ってきたのでしょうか。ここからは私見になりますが、冒頭の流行語とことわざの話に関係があると思います。

現代は、情報の量、伝わる速さ、発信者の多様性等が極限にまで発達した社会です。こうした高度に発達した情報化社会の中では、流行語によって人の行動が誘発されたり、ことわざなどに込められた人間の知恵がたやすく失われたりすることが起こりやすくなります。そうした時代だからこそ、対象と言葉、言葉と言葉との関係を不断に捉え直し問い直し、言葉への自覚を高めていくことが不可欠であるということなのでしょう。重い命題ではありますが、これからの国語科授業に欠かせない視点の一つだといえます。

これからもっと寒くなります。みなさん、お身体をご自愛ください。

12・1月の主な行事等

- 12/20(金) 給食終了、午前中授業
- 12/23(月) 個人懇談会
- 12/24(火) 終業式
- 12/27(金), 28(土) 学校閉庁日
- 12/29(日)～1/3(金) 年末年始休業
- 1/ 8(水) 始業式
- 1/ 9(木) 給食開始
- 1/11(土) PTAレミネーション撤去
- 1/14(火) 丸付け先生再開
- 1/17(金) 読み聞かせ再開
避難訓練(予定)
- 1/18(土) 歯みがきリピック(～1/26)